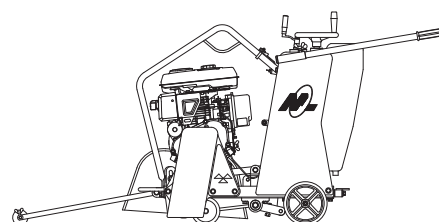


Mikasa

コンクリートカッター

MCD-214
MCD-216
MCD-218



取扱説明書

ja



<http://www.mikajas.com>

601-01219



目 次

1	はじめに -----	1
2	機能概要 -----	1
3	警告サイン -----	2
4	安全のための注意事項 -----	2
	4.1 一般的な注意事項	2
	4.2 給油中の注意事項	2
	4.3 使用場所、換気に関する注意事項	3
	4.4 作業前の注意事項	3
	4.5 作業中の注意事項	3
	4.6 リフティング時の注意事項	4
	4.7 運搬及び保管に関する注意事項	5
	4.8 整備上の注意事項	5
	4.9 ラベルの取付位置図	6
	4.10 警告ラベルの絵文字説明	7
5	外観図 -----	8
	5.1 外観寸法図	8
	5.2 コントロール装置位置及び装置名称	9
6	仕様 -----	10
	6.1 本体仕様	10
	6.2 ダイヤモンドブレード	10
	6.3 エンジン仕様	10
7	運転前点検 -----	11
8	運転 -----	15
	8.1 始動	15
	8.2 作業	16
9	停止 -----	18
10	輸送 -----	19
	10.1 積み込み、積み下ろし	19
	10.2 運搬に関する注意事項	19
11	手入れと保存 -----	20
12	定期点検と調整 -----	21
13	トラブルシューティング -----	22

1. はじめに

- この取扱説明書は、コンクリートカッターの正しい取扱方法、簡単な点検及び手入れについて記載してあります。本機の優れた性能を生かし、お仕事の能率を上げ効果的な作業を進める為に、**ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さい。**
- お読みになった後も**必ずお手元に保管**し、分からない事があった時には取り出してお読み下さい。
- エンジンの取扱に関しては、別途**エンジン取扱説明書**を参照して下さい。
- 補修部品、パーツリスト、サービスマニュアル及び修理に関しては、販売店・当社各営業所もしくは三笠部品サービスセンターにお問い合わせ下さい。なお、パーツリストは当社ホームページ <http://www.mikasas.com/> の三笠 WEB パーツリストでも公開しております。是非ご利用下さい。

この取扱説明書に記載されているイラストが、設計変更等により一部実機と異なる場合があります。

2. 機能概要

【用途】

ブレード軸にダイヤモンドブレードを装着し、コンクリート及びアスファルトの路面を切断する機械です。切削する深さに応じた機体で、コンクリートやアスファルトの材齢やコンクリート内の鉄筋の有無など、切削する状況に合わせたブレードを選択して使用します。

【誤用途、誤使用の警告】

無筋コンクリート、鉄筋コンクリート及びアスファルト以外の切断に使用してはいけません。土砂を切断してはいけません。土砂が飛散し外傷の危険があります。
本機はダイヤモンドブレード専用です。レジノイドブレードを使用してはいけません。
必ず注水しながら切削してください。ブレードの膠着やブレードチップの飛散等が発生し危険です。ブレードに合った回転数以上で使用してはいけません。ブレードの膠着やブレードチップの飛散等が発生し危険です。
本機が不安定な状態での使用および不整地での使用は、ブレードの膠着やブレードチップの飛散等の危険が発生しますので使用してはいけません。コンクリート二次製品などの切断には使用しないで下さい。

【構造】

本体ベース上にエンジンが固定され、Vベルトで動力をベース下部のブレードシャフトに伝えます。ベルトの張り調整は、エンジンを前後にスライドさせる方式です。ベースにはベルトカバー、ガイドハンドル、ブレード昇降調整用のハンドル並びに脱着可能なブレードカバーが取り付けられています。切削深さは、ブレード昇降ハンドルを回し、前車輪を取付けたアームを起伏させて調整します。走行は、本機を直接押して行う方式です。

【動力伝達】

原動機は4サイクル空冷単気筒ガソリンエンジンです。エンジン出力軸にはVプーリーが取り付けられており、Vベルトを介してブレード軸を駆動します。ブレード軸にブレードを取り付けて切削を行います。切削深さの調節はブレード昇降ハンドルを回し、前車輪を取り付けたアームを起伏させて行います。切削時の走行は、クランクハンドルを回す事でウォームギヤを介して後車輪（軸）を回転させて行います。

3. 警告サイン

本取扱説明書及び本機に貼り付けてあるラベルの⚠マークは警告サインです。安全上、必ず厳守して下さい。

⚠ 人体に対する危険がある場合の警告サイン

⚠ 危険 指示を守らないと、死亡又は重大な傷害事故が生じる危険性が極めて高い場合

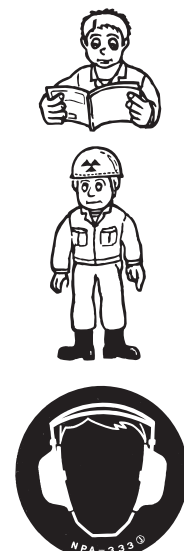
⚠ 警告 指示を守らないと、死亡又は重大な傷害事故が生じる危険性が有り得る場合

⚠ 注意 指示を守らないと、怪我や障害事故が生じる可能性がある場合

注意 (⚠マーク無し) 指示を守らないと、物的な損害が発生する可能性がある場合

4. 安全のための注意事項

4.1 一般的な注意事項

⚠ 警告	●こんな時は作業をしない。 ○過労や病気等で体調が悪い時。 ○薬物を服用している時。 ○飲酒をした時。	
⚠ 注意	●取扱説明書を良くお読み頂き、正しい取扱で安全に作業を行って下さい。 ●エンジンの取扱は別紙エンジン取扱説明書を参照して下さい。 ●本機の構造を充分理解して下さい。 ●作業を安全に行うために、防護具（ヘルメット、安全靴、耳栓等）を着用し、適切な作業服で作業して下さい。 ●常に機械を点検し、正常であることを確認してから運転して下さい。 ●本機の貼付銘板（操作方法・警告銘板等）は安全を守るために非常に重要です。機体を清掃し、常に読みやすい状態を保って下さい。読みにくくなった場合は、新しい銘板に交換して下さい。 ●幼児等が触れると大変危険です。保管方法、保管場所には充分注意して下さい。 ●点検・整備する場合は必ずエンジンを停止させ、水平な場所で行って下さい。 ●改造や修正を加える事で発生した如何なる事故に関して、当社は一切責任を負いません。	

4.2 給油中の注意事項

⚠ 危険	●燃料を給油する時 ○必ず換気の良い場所で行って下さい。 ○必ずエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから給油して下さい。 ○周囲に可燃物の無い平坦な場所を選び、こぼさないように注意して下さい。こぼれたら良く拭き取って下さい。 ○給油中は絶対に火気を近付けないで下さい。（特にタバコを吸いながらの給油は厳禁） ●燃料は口元一杯まで入れるとこぼれる可能性があります危険です。給油レベルはエンジン取扱説明書に規定された量を守って下さい。 ●給油後は、タンクキャップをしっかり締め込んで下さい。	
-------------	---	---

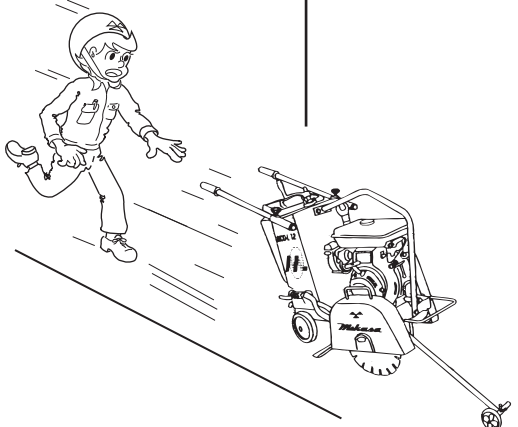
4.3 使用場所、換気に関する注意事項

⚠ 危険	● 室内、トンネル内等換気の悪い場所では使用しないで下さい。エンジンの排気ガスには、有害な一酸化炭素等が含まれており、大変危険です。 ● 火気のある傍での運転はしないで下さい。	
-------------	---	---

4.4 作業前の注意事項

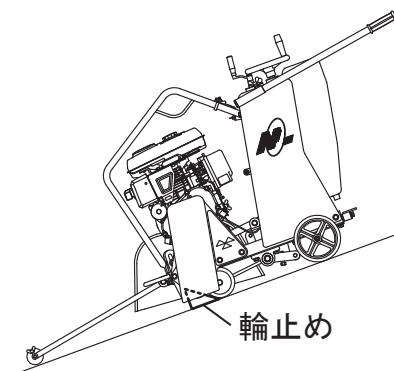
⚠ 注意	● 各部分の締付具合を点検して下さい。振動でネジが緩んでいと思わぬ大きな故障の原因となります。ネジはしっかりと締め付けて下さい。 ● ダイヤモンドブレードにブレードチップの欠損や基板のひび割れ等の異常が無い事を確認して下さい。 ● 3 箇月以上エンジンを回していない場合は、油膜切れによる機体摺動部の焼き付きを防ぐ為に、低速で十分に暖気運転を行ってください。	
-------------	---	--

4.5 作業中の注意事項

⚠ 注意	● 機械を始動したり作業する時は、周囲の人や障害物に対して安全である事を確認して下さい。 ● 常に足場に注意し、機械のバランスを保てる無理の無い安定した姿勢で作業して下さい。 ● エンジン本体、マフラーは高温になりますので、運転時及び運転直後等の熱い時には触れないように注意して下さい。 ● 運転中に機械の調子が悪くなったり、異常に気付いた場合は直ちに本機を停止させ作業を中止して下さい。 ● ブレードが付いた状態でカッターを待機させないようにして下さい。やむを得ない事情で待機運転させる場合には低速で短時間行う事を心がけてください。 ● 本機から離れる場合は、必ずエンジンを停止させて下さい。また本機を移動させる時もエンジンを停止させ、燃料コックを閉じて下さい。 ● ブレードカバーは必ず装着してご使用下さい。 ● エンジン始動と同時にブレードが回転しますので充分気を付けて下さい。特に足等を近付けしないで下さい。 ● 回転部（ベルトカバー内等）には手、服等を巻き込まれないように充分注意して下さい。	
⚠ 危険	傾斜地での注意事項 本機を傾斜地で使用する場合、様々な危険が伴います。最低限下記の項目を厳守した上で、更なる安全確保に努めて下さい。安全を確保できない場合は絶対に使用しないで下さい。 ● 傾斜地では本機を放置しないで下さい。万一本機が動き出すと重大な事故を引き起こす危険性があります。 ● 傾斜地では、ハンドルをしっかり握り、決して本機から手を離さないで下さい。手を離した瞬間に本機が自重で動き出し、重大な事故を引き起こす危険性があります。 ● ハンドルからグリップが抜けると本機が暴走する危険性がありますので充分に御注意下さい。	

⚠ 危険

- ハンドルからグリップが抜けると本機が暴走する危険性がありますので十分に御注意下さい。
- 傾斜地で作業する際は、必ず本機に対し斜面の上側に位置し、斜面に対して本機が真っ直ぐ下を向くようにして作業を行って下さい。
- 本機は平坦な場所で停止させて下さい。止むを得ず本機を傾斜地に停止させる場合は、必ずエンジンを停止させた上で本機を真っ直ぐ下向きにし、安全確保のために前車輪に必ず輪止めをして下さい。前輪に輪止めをかけても、前後や左右に揺さぶられたりしますと本機は輪止めを乗り越え動き出す可能性が高く大変危険ですので御注意下さい。後車輪には輪止めをしても効果がありません。停車の際は必ず前輪に輪止めを御使用下さい。



- 輪止めをする際、本機の前側には絶対に行かないで下さい。万一本機が動き出した場合、ブレードによる身体の切断や本機の衝突により大怪我や死亡に至る危険性があります。
- 輪止めをする際、ブレードが手に触れますと大怪我をする恐れがあり大変危険です。必ず本機のベルトカバー側から輪止めをして下さい。
- 停止の際、水タンクに水が入っていると重心が高くなりバランスが悪くなる為、前輪に輪止めをかけても前輪が輪止めを乗り越えて動き出し大変危険です。この場合必ず水タンクから水を抜いて下さい。
- 傾斜地において路面が濡れていますと、角度によっては輪止め自体が滑り効果が無くなります。止むを得ず傾斜地で停止させる場合は必ず乾いた路面に停止させて下さい。
- 傾斜地でのブレード取付取外し作業は危険ですので行わないで下さい。
- 斜面を横断するような作業は行わないで下さい。本機の転倒やブレードの破損等重大な事故を引き起こす恐れがあります。

4.6 リフティング時の注意事項

クレーンによる積み下ろし作業は資格が必要です。クレーンの運転・玉掛け作業の資格がある人が行って下さい。

⚠ 危険

- 吊り上げ作業に対し、本機部品（特にフック・防振ゴム）の損傷やネジの緩み・脱落が無く安全である事を確認して下さい。
- 吊り上げ時はエンジンを停止させ燃料コックを閉じて下さい。
- 強度の十分なワイヤーロープ等を使用して下さい。
- 吊り上げ作業は一点吊りフックのみ使用し、その他の場所（ハンドル等）での吊り上げ作業はしないで下さい。
- 本機を吊り上げた際、下には絶対に人や動物を入れないで下さい。
- 安全の為、必要以上の高さには吊り上げないで下さい。

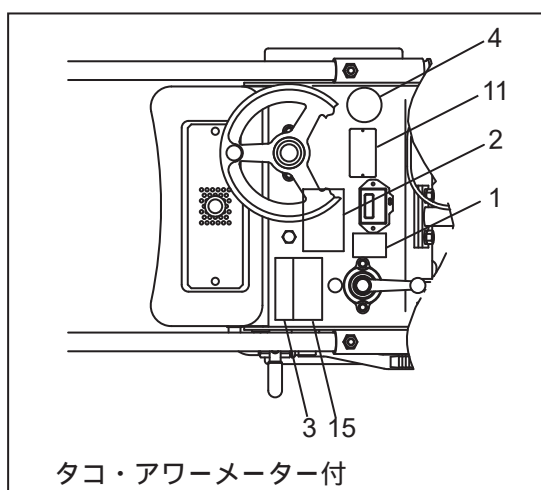
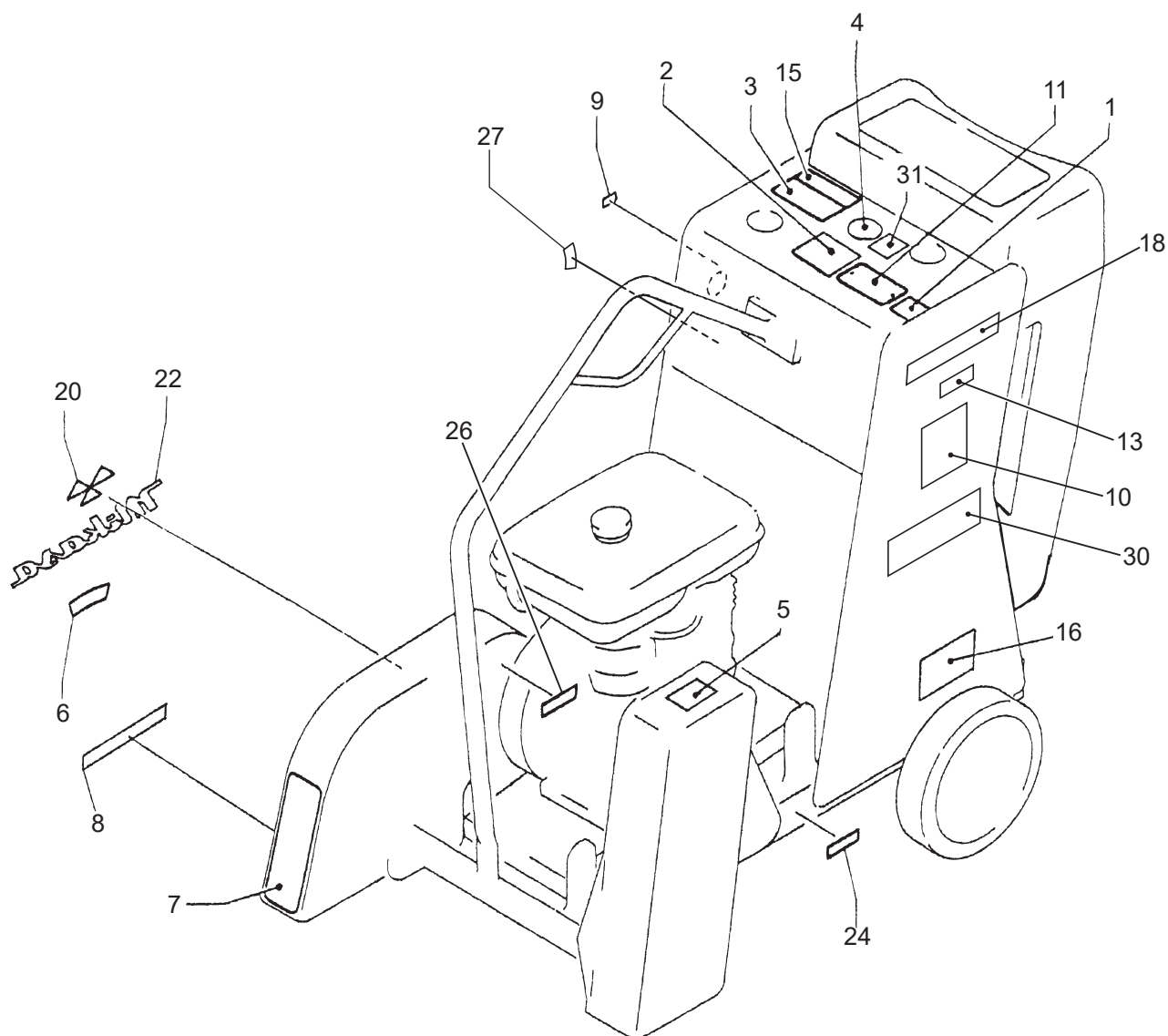
4.7 運搬・保管に関する注意事項

	● 運搬時はエンジンを停止させて下さい。 ● 運搬時は必ずブレードを外して下さい。 ● エンジン及び本機がよく冷えてから運搬して下さい。 ● 運搬時は必ず燃料を抜いて下さい。 ● 本機が動いたり、倒れたりしないようしっかりと固定して下さい。	
---	--	--

4.8 整備上の注意事項

	● 安全を確保し、本機の性能を維持する為に、適切な整備が必要です。本機の状態を充分留意し、良好な状態を維持して下さい。特に、リフティング関連部品の不適切な整備は重大事故の原因となります。 ● 必ずブレードを外してから作業を行って下さい。ブレードに身体が接触しますと、思わぬ怪我をするおそれがあります。 ● 本機の温度が下がってから作業を行って下さい。特にマフラーは高温になり、火傷をするおそれがあります。またエンジンやエンジンオイル、ブレード等も熱くなりますので、火傷をしないよう充分注意して下さい。 ● 点検調整は、必ずエンジンが停止した状態で行って下さい。回転部に巻き込まれ、重大な傷害を負う危険性があります。 ● 整備終了後、保安部品の取付及び安全性の確認を行って下さい。特に、ボルト・ナットの点検は充分行って下さい。	
---	--	--

4.9 ラベルの取付位置図



NO.	PART NO.	部 品 名 称	備考	NO.	PART NO.	部 品 名 称	備考
1	9201-08350	銘板,取扱説明書熟読(和文)		15	9201-10410	銘板,操作説明図(フリー、手動走行/210)	
2	9201-06630	銘板,取扱注意 / MCD - 210		16	9201-07780	銘板,車輪ロック説明図	
3	9201-06580	銘板,操作説明図(昇降)		18	9201-08820	銘板,型式ロゴ/MCD-214V	214
4	9202-03330	銘板 騒音保護防止		18	9201-08830	銘板,型式ロゴ/MCD-216V	216
5	9201-08360	銘板,回転部接触禁止(和文)		18	9201-08840	銘板,型式ロゴ/MCD-218V	218
6	9201-04980	銘板,回転方向		18	9201-15120	銘板,型式ロゴ/MCD-214	214SGK
7	9201-06980	銘板,足元危険 / MCD - 210		18	9201-15040	銘板,型式ロゴ/MCD-216S	216SGK
8	9202-10120	銘板,中型カッター用目盛(ブレードカバー)		18	9201-15050	銘板,型式ロゴ/MCD-218S	218SGK
9	9201-00120	銘板,グリース(貼)/NP-120		18	9201-21080	銘板,型式ロゴ/MCD-214H	214HDX
10	9201-09690	銘板,シンボルマーク/MCD-210V		18	9201-21090	銘板,型式ロゴ/MCD-216H	216HSDX
10	9201-09690	銘板,シンボルマーク/MCD-210V		18	9201-21100	銘板,型式ロゴ/MCD-218H	218HSDX
11	9202-07550	銘板,製番/MCD-214VDX	214	20	9202-10960	銘板,三笠マーク(白,40×80)	214,216
11	9202-07830	銘板,製番/MCD-216VDXS	216	20	9201-06870	銘板,三笠マーク(三角60W)	218
11	9202-07840	銘板,製番/MCD-218VDXS	218	22	9201-09560	銘板,Mikasa(250白)	214,216
11	9202-15090	銘板,製番/MCD-214SGK	214SGK	22	9201-08610	銘板,Mikasa(440.白)	218
11	9202-15100	銘板,製番/MCD-216S-SGK	216SGK	24	9202-08350	銘板,ベルトサイズ/RPF3330	214
11	9202-15110	銘板,製番/MCD-218S-SGK	218SGK	24	9202-07680	銘板,ベルトサイズ RPF3340	216,218
11	9202-21160	銘板,製番/214HDX/国内/CE無	214HDX	24	9202-07680	銘板,ベルトサイズ RPF3340	214HDX
11	9202-21170	銘板,製番/216HSDX/国内/CE無	216HSDX	26	9201-06930	銘板,ブレードカバー小(14")	214
11	9202-21180	銘板,製番/218HSDX/国内/CE無	218HSDX	26	9201-06920	銘板,ブレードカバー中(16")	216
13	9201-08860	銘板,型式ロゴ DX	VDX	26	9201-06910	銘板,ブレードカバー大(18")	218
13	9201-08870	銘板,型式ロゴ DXS	VDXS	27	9201-06760	銘板,キー-SW ON-OFF	218HSDX
13	9202-21110	銘板,型式ロゴ/SDX	HDX,HSDX	27	9201-06760	銘板,キー-SW ON-OFF	216HSDX
13	9202-15060	銘板,型式ロゴ/-SGK	SGK	30	9201-11900	銘板,低騒音カッター	SGK

4.10 警告ラベルの絵文字説明



- ・騒音による聴覚障害に注意
本機運転中は、必ず耳栓やイヤーマフラーを着用して下さい。



- ・取扱説明書熟読
運転前に必ず取扱説明書をよく読み、操作内容を充分理解して下さい。



- ・回転部接触禁止
回転中のブレードやブレード軸、プーリー、Vベルトには絶対に手を触れないで下さい。ブレードカバーやベルトカバーを外しての運転はお止め下さい。



- ・足元危険
本機運転中は、足元に充分注意して下さい。足元をブレードに近付けないで下さい。

エンジン付属銘板



火気厳禁

給油時は必ずエンジンを停止させて下さい。給油口に火気を近づけると火災の危険があります。

排気ガス中毒に注意

排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒等を引き起こす危険性があります。換気の悪い場所では運転しないで下さい。

マフラー高温注意

マフラー及びその周辺に触れないで下さい。

取扱説明書熟読

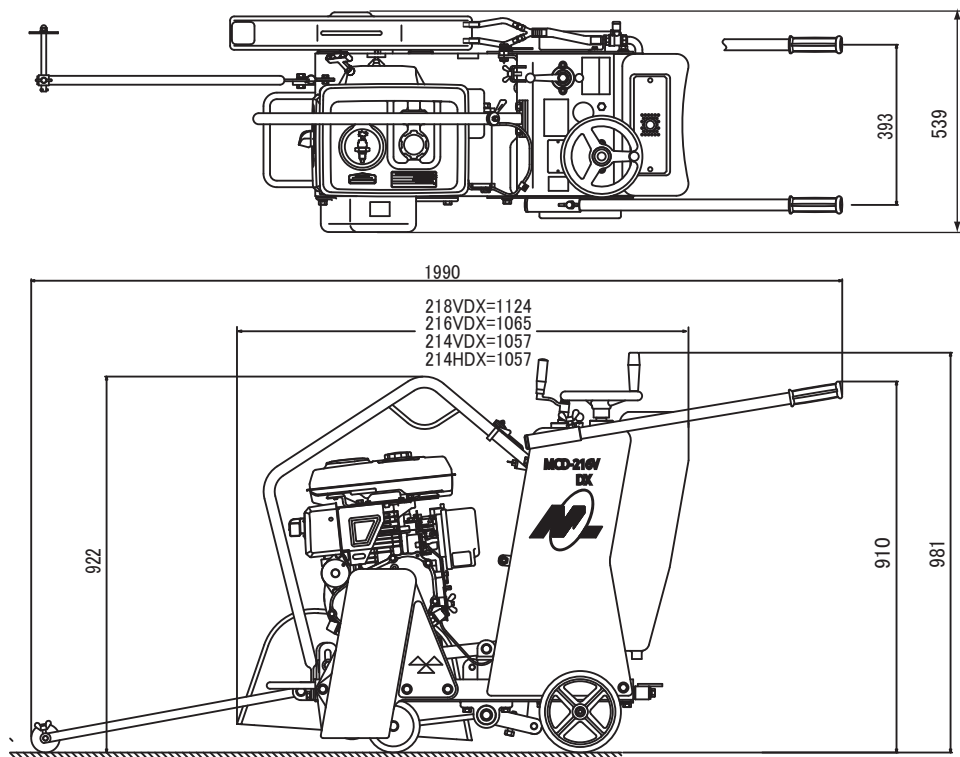
安全の為、取扱説明書をよく読み使用して下さい。

燃料はガソリンを使用して下さい。

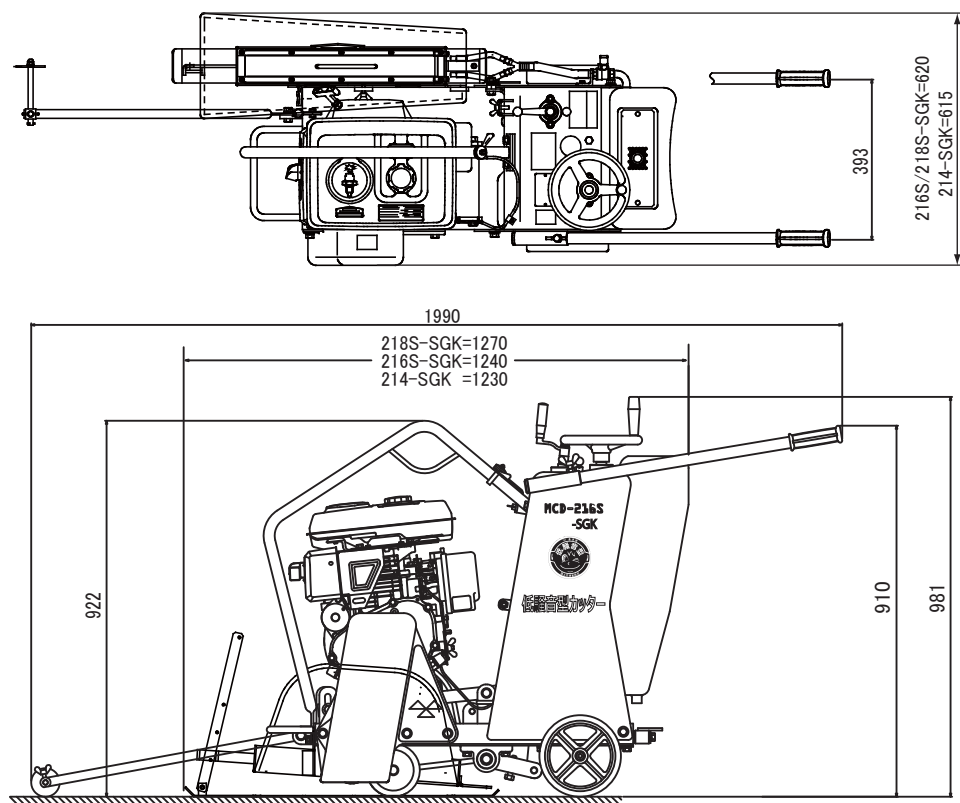
5. 外觀圖

5.1 外觀寸法圖 (mm)

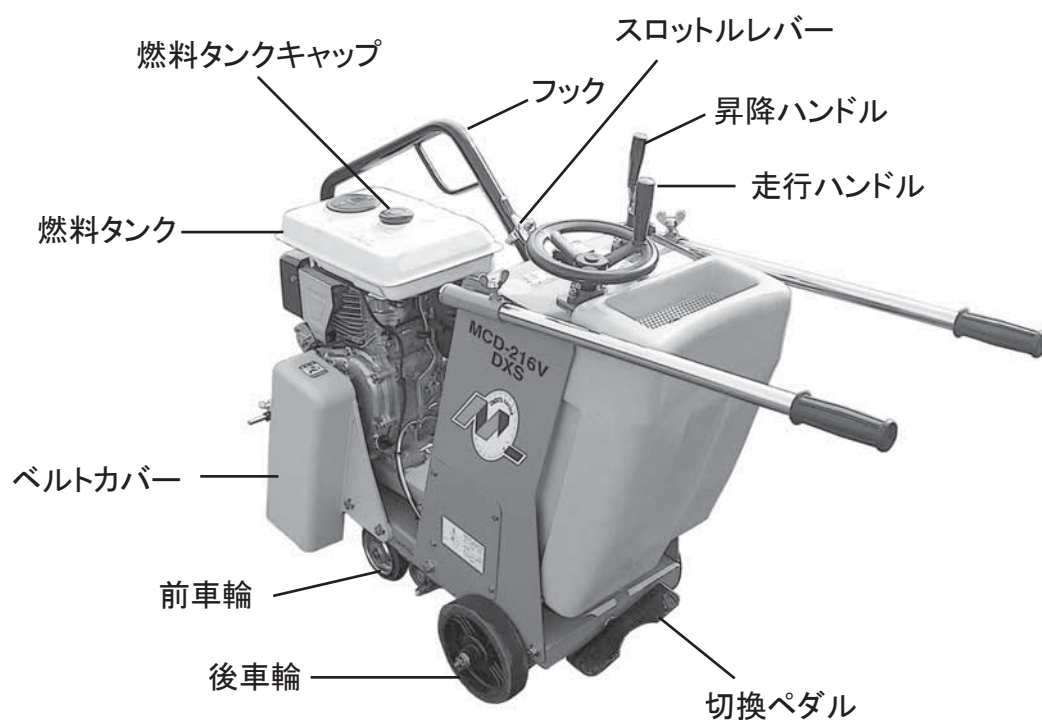
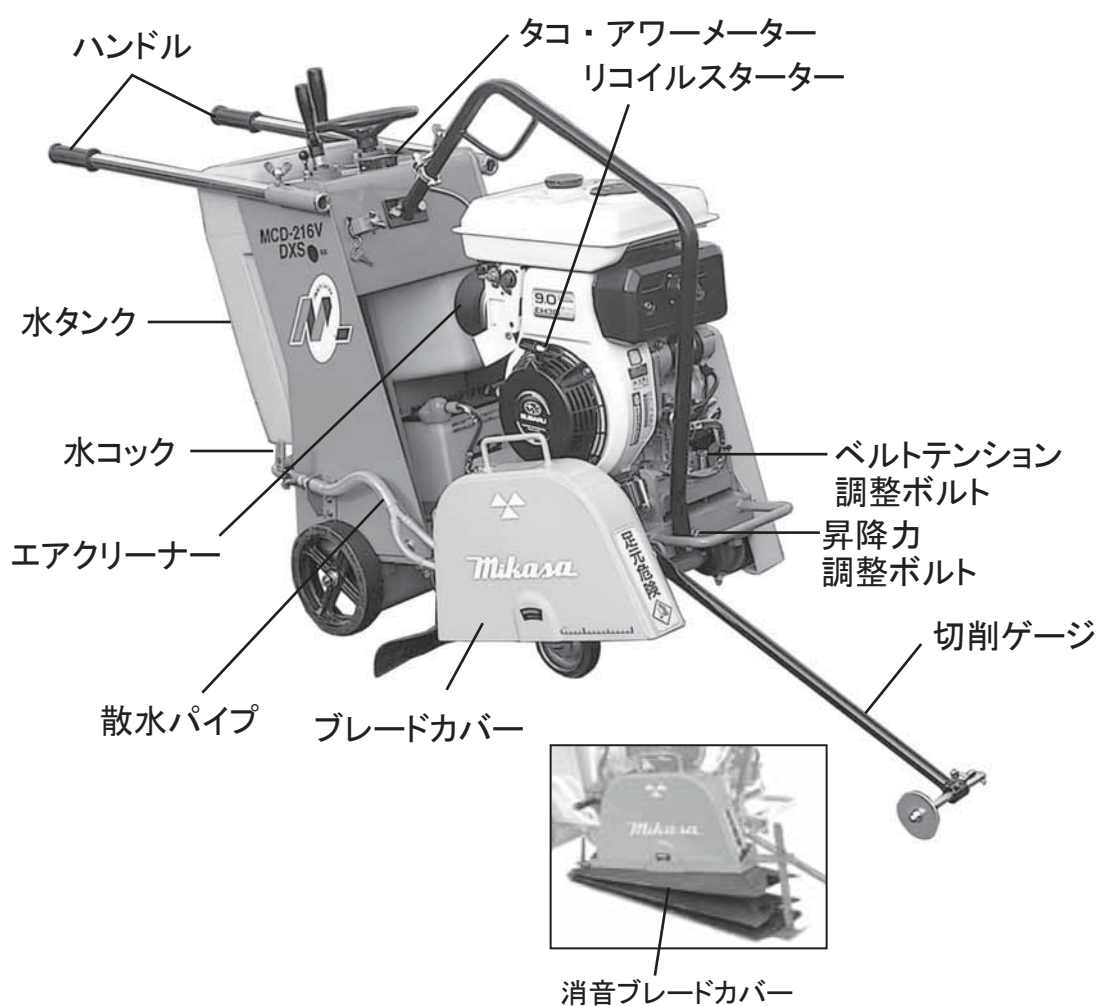
MCD-214 ~ 218VDX



MCD-214 ~ 218SGK



5.2 コントロール装置位置及び装置名称



※ 写真は”MCD-216VDXS”です。

6. 仕様

6.1 本体

型 式	MCD-214VDX (MCD-214-SGK)	MCD-216VDXS (MCD-216S-SGK)	MCD-218VDXS (MCD-218S-SGK)
搭載エンジン	EH25-2D	EH30DS	EH34DS
主 要 寸 法			
全長 切削ガイド、ハンドル伸長時	1990mm	←	←
全長 切削ガイド、ハンドル格納時	1057mm (1230mm)	1065mm (1240mm)	1124mm (1270mm)
全幅	539mm (615mm)	539mm (620mm)	←
全高 機体水平時	981mm	←	←
機械質量	136kg (142kg)	158kg (165kg)	←
取付けブレード制限	14in. 以下	16in. 以下	159kg (167kg)
走行方式	ハンドル回転式		
切断深度調節	手動スクリュー式		
ブレード冷却方式	重力注水遠心力噴射方式		
水タンク容量	45L		
ブレード軸径	27mm		
型 式	MCD-214HDX	MCD-216HSDX	MCD-218HSDX
搭載エンジン	GX240	GX270	GX390
主 要 寸 法			
全長 切削ガイド、ハンドル伸長時	←	←	←
全長 切削ガイド、ハンドル格納時	1057mm	1065mm	1124mm
全幅	539mm	←	←
全高 機体水平時	←	←	←
機械質量	134kg	148kg	157kg
取付けブレード制限	14in. 以下	16in. 以下	18in. 以下
走行方式	ハンドル回転式		
切断深度調節	手動スクリュー式		
ブレード冷却方式	重力注水遠心力噴射方式		
水タンク容量	45L		
ブレード軸径	27mm		

機械質量は、燃料：タンク容量の1/2、作動油・潤滑油：規定レベル、エンジンオイル：上限レベル、水タンク：空の状態での質量です。

6.2 ダイヤモンドブレード

使用ブレード寸法	外径	最大切削深さ
10インチ (in.)	254mm	70mm
12インチ (in.)	305mm	95mm
14インチ (in.)	356mm	120mm
16インチ (in.)	407mm	145mm
18インチ (in.)	457mm	170mm

6.3 エンジン

標準仕様型式	EH25-2D	EH30DS	EH34DS
エンジン型式	空冷 4 サイクルガソリンエンジン		
最大出力	5.9kW/3600min ⁻¹ (8.0PS/3600rpm)	6.6kW/3600min ⁻¹ (9.0PS/3600rpm)	8.1kW/3600min ⁻¹ (11PS/3600rpm)
燃料タンク容量	6.0ℓ	6.0ℓ	6.0ℓ
標準仕様型式	GX240	GX270	GX390
エンジン型式	空冷 4 サイクルガソリンエンジン		
最大出力	5.9kW/3600min ⁻¹ (8.0PS/3600rpm)	6.3kW/3600min ⁻¹ (8.6PS/3600rpm)	8.7kW/3600min ⁻¹ (11.8PS/3600rpm)
燃料タンク容量	5.3ℓ	5.3ℓ	6.1ℓ

7. 運転前点検

⚠ 危険

エンジンが停止した状態で点検を行ってください。
回転部に巻き込まれますと、重大な傷害を負う
危険性があります。
機体を水平にし、機体が動かない事を確認して
から点検して下さい。

- ★ 作業前の点検箇所は 15 ページに記載されている「各部点検スケジュール表」を参照して下さい。
なお、初回運転前は必ず下記点検項目を全て
行って下さい。

7-1 エンジンオイル

エンジンを水平にして、オイルゲージにてオイル
を点検して下さい。不足の場合は適時注入口より
補充して下さい。オイルは下記の物を使用して
下さい。（出荷時は 10W-30）
オイルの品質は SC 級以上の物を御使用下さい。
エンジンオイルの質及び量を低下させると焼付や
損傷を招きます。（図 1,2）

	温度	使用オイル (SE 級以上)
夏	25℃以上	SAE#30
春・秋	25 ～ 10℃	SAE#30、#20
冬	10 ～ 0℃	SAE#20
	0℃以下	SAE#10

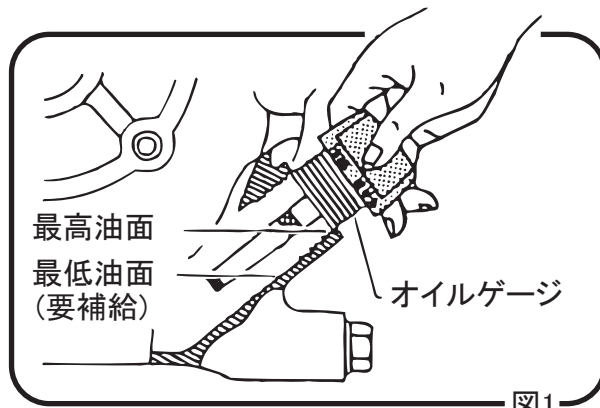


図1

7-2 燃料

燃料は自動車用無鉛ガソリンを使用して下さい。
燃料補給は、エンジンを必ず停止させ、注入口
に装着してあるコシ網を使用して下さい。こぼれ
た場合は綺麗に拭き取って下さい。（図 2）

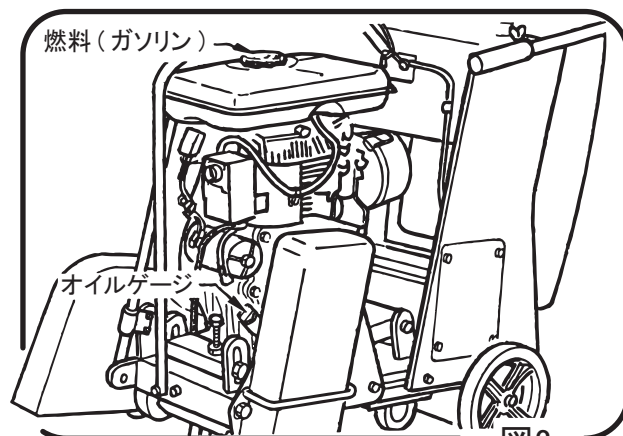


図2

7-3 手動ウォームギヤ

潤滑はグリス潤滑です。各グリスニップル及び
各摺動部にグリスアップして下さい。

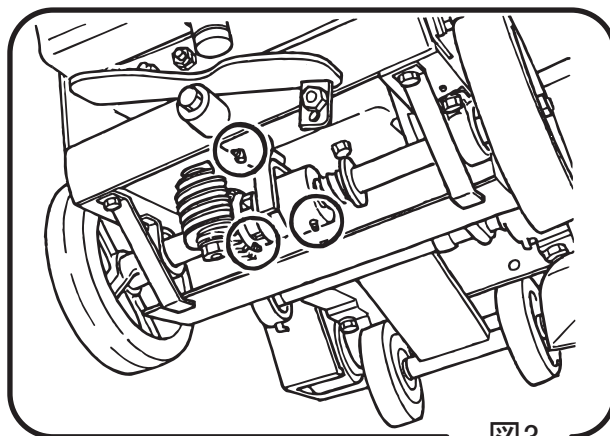


図3

7-4 散水装置

水タンクに水を入れて下さい。(容量 45L)
散水コックを開き、ブレードカバー内の散水パイプから水が出る事を確認します。

7-5 ベルトの点検

ベルトカバーを外してエンジン～ブレード軸の V ベルトの損傷及び緩みを点検して下さい。張り具合は両軸の中間部を指で強く押して 10 ～15mm 位たわむように張ってあれば正常です。張りが不足している場合は調整して下さい。V ベルト交換の際は 4 本全て交換して下さい。

V ベルトの調整・交換方法は下記の手順で行います。(図 5) (調整のみは 4・5 の作業はしません)

1. ベルトカバーを外します。(ボルト 3 本)
2. エンジンベース取付ボルト前側 (2 本)、後側 (2 本) を緩めます。
3. 調整ボルトのナットを緩めてボルトを緩めます。
4. エンジンベースを下げ V ベルトを外します。
5. V ベルト交換 (MCD-214 系:A-33、MCD-214HDX :A-34、MCD-216 系及び 218:A-34) を全て交換します。
6. 調整ボルトにてベルト張り調整をします。調整ボルトにてベルト張り調整をする際に、ある程度張り調整が出来ましたら、エンジンリコイル側の前側取付けボルトを締め付けます。調整ボルトにてエンジンベースが水平になるように調整します。調整ボルト部ナットを締め付けます。
7. エンジンベース取付けボルト前側 (2 本) 後側 (2 本) を締め付けます。
8. ベルトカバーを取付けます。(ボルト 3 本)

7-6 本機各部のボルトナットの締付を点検して下さい。

7-7 本機の昇降方法

本機を昇降する時は、右側のクランクハンドルのすぐ下にあるツマミを上方に引き浅い溝にセットするとロックが解除されます。クランクハンドルを右へ回すと本機は上がり、左へ回すと下がります。切削深さ G は決定したら、ツマミを深い溝の方へセットして下さい。本機の上下がロックされます。(図 6)

7-8 本機の昇降力の調整

本機前部のボルトを回して調整します。

- a. 右へ回すと昇降用クランクハンドルの右回転(本機上昇)操作力が軽くなりますが下降させる操作力(左回転)は重くなります。
 - b. 左へ回すと昇降用クランクハンドルの右回転(本機上昇)操作力が重くなりますが下降させる操作力(左回転)は軽くなります。
- ※本機を上昇させる操作力と下降させる操作力がほぼ同じになるよう調整して御使用下さい。(図 7)

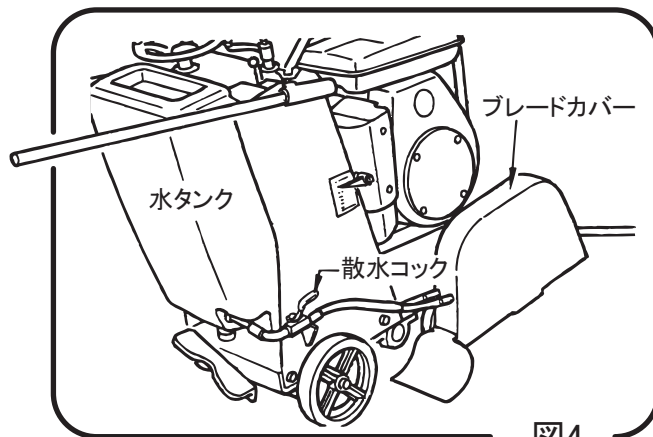


図 4

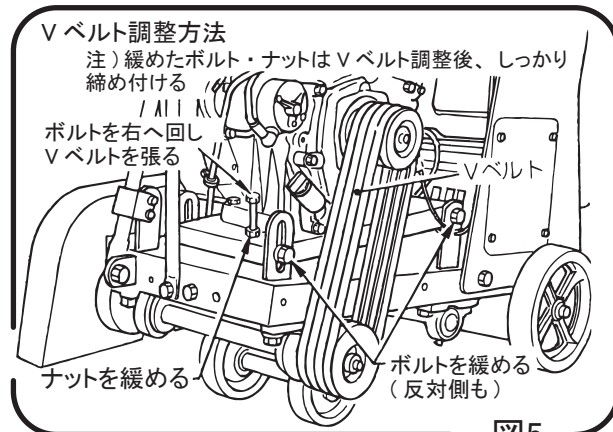


図 5

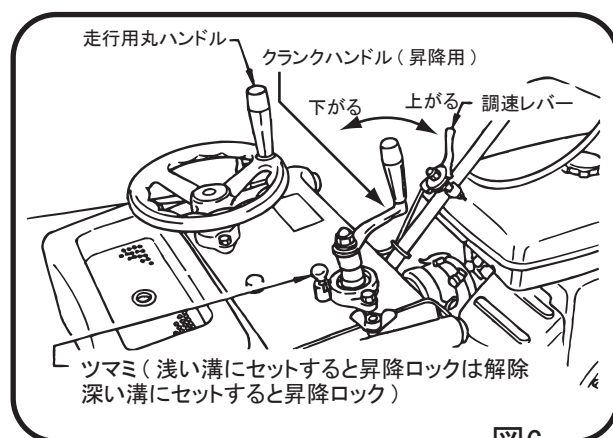


図 6

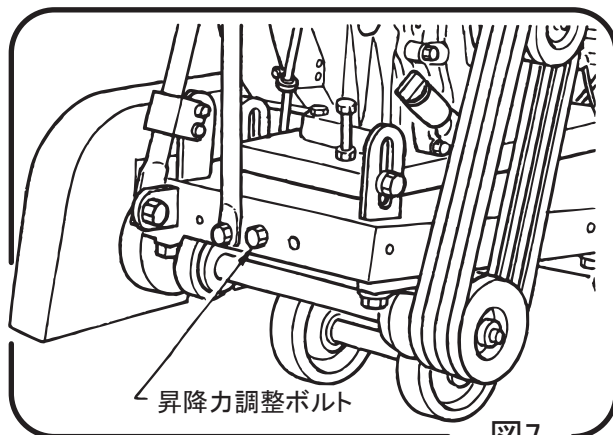


図 7

7-9 切削深さの読み取り方法

切削深さは、回転の中心であるブレード軸の真下で地表に接した位置(読取位置)からブレードの先端である外周までの距離です。
アスファルト又はコンクリートをダイヤモンドブレードで切り込んだ時、ブレードの側面には回転の筋跡(筋の軌跡)ができます。
切削深さの読み取りは、読取位置にある筋の軌跡を辿ってブレードカバーに貼り付けられたゲージにて外周との距離を読み取って行います。(図8)

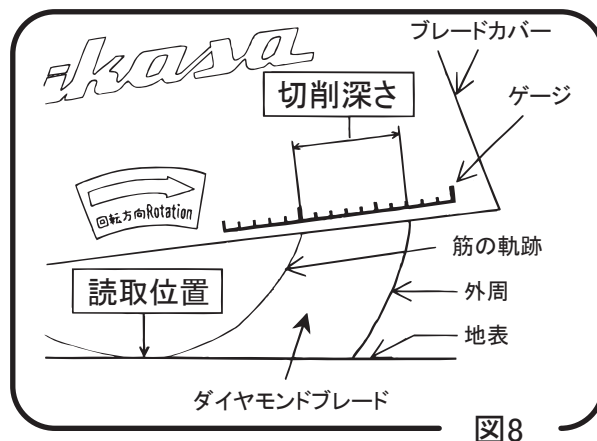


図8

7-10 ブレード・消音ブレードカバーの取付け

※ブレード取付けのみは a・c は作業しません。

a. セットボルト(取付ボルト)でBを固定して下さい。(図9)

b. ブレードを取り付ける。

ブレード軸にフランジ(内)、ダイヤモンドブレード、フランジ(外)、ワッシャー 25×40×4 の順に入れ、締付ナット(左ネジ)で充分締付けて下さい。(図10-1)この際、付属工具のスパナをブレードシャフトのスパナ掛け部に掛けて固定し、締付けナット(左ネジ)をスパナで反時計方向に回して確実に締付けます。(図10-2、図10-3)

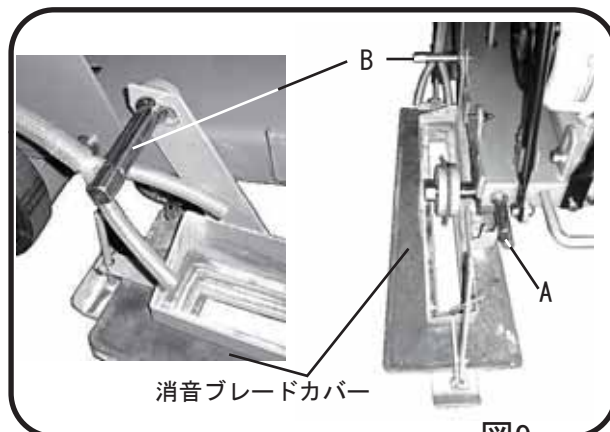


図9

⚠ 警告

図10-3 の方法で組付ける際は、必ずブレードシャフトのスパナ掛け部にスパナ①を確実に掛けて、スパナ①をエンジンベースに当て固定された状態でスパナ②を踏んで下さい。(図10-3) スパナ①がエンジンベースに当たっていない状態でスパナ②を踏みますと大怪我をする恐れがあり大変危険です。

c. セットボルト(取付ボルト)でAを固定して下さい。(図9)

d. ブレードカバーを取り付ける前に、ダイヤモンドブレードを取り付けた状態で昇降に支障がないかを確認して下さい。

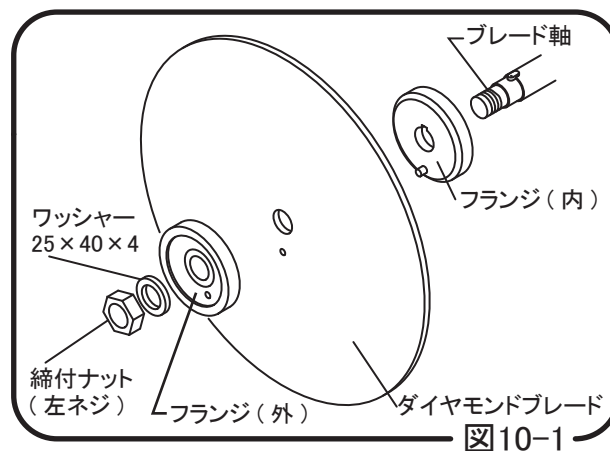


図10-1

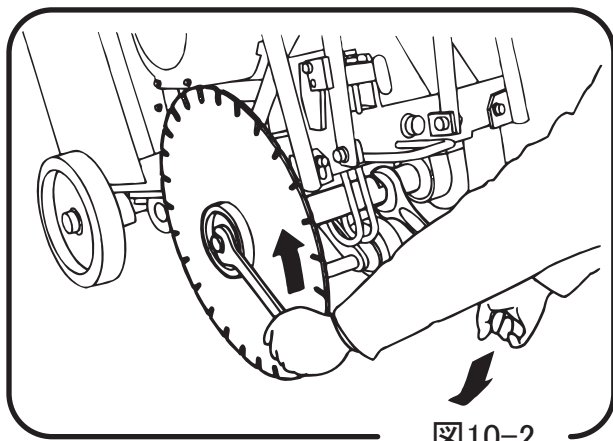


図10-2

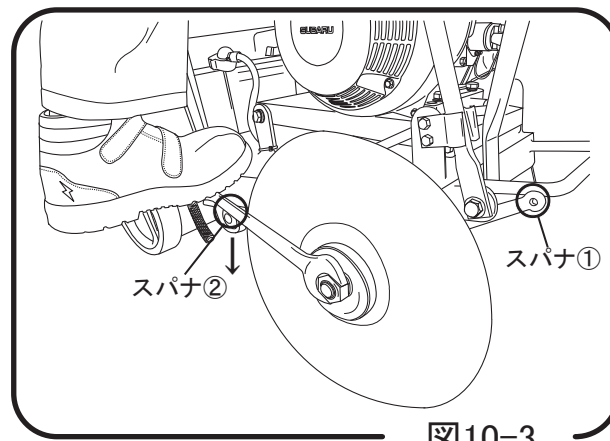
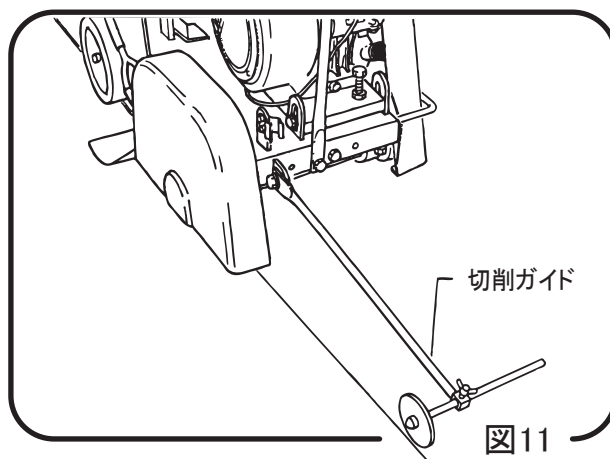


図10-3

7-11 ブレード締付け後、冷却水を確認の上、ブレードカバーを装着して下さい。

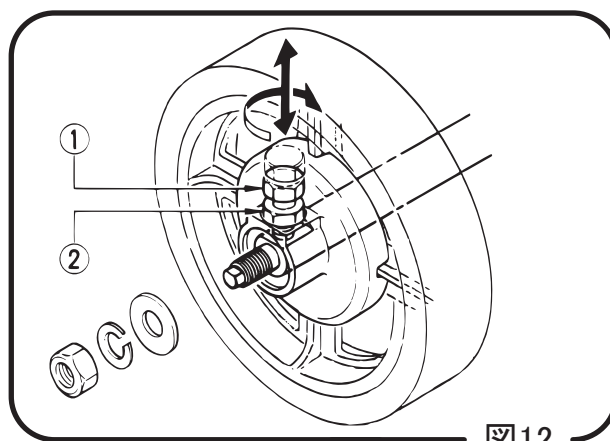
7-12 切削ガイドをブレードと同一線上にくるようセットして下さい。(図11)



7-13 車輪の固定方法

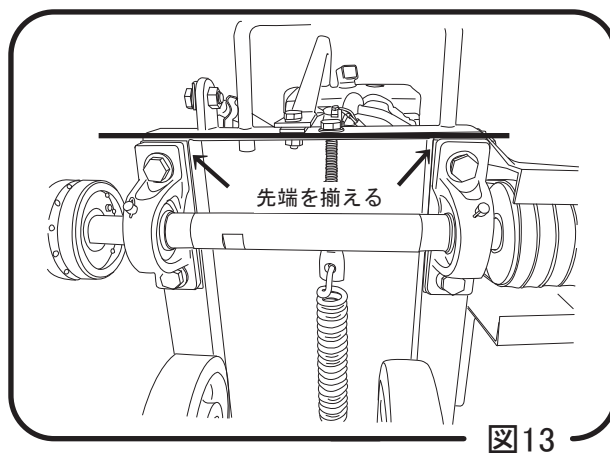
車輪を固定する時は車軸先端部の切欠きと車軸位置を必ず図の様に合わせてボルト①を締め付けナット②で固定して下さい。(図12)

車軸を軸よりフリーにする時にはナット②・ボルト①を緩め車軸を浮かせた状態で車輪が軽く回ることを確認してからナット②でボルト①を固定して下さい。(図12)



7-14 ピローブロック(ブレードシャフト)の交換

ピローブロック(ブレードシャフト)の交換の際、左右のピローブロックの先端が本体ベースと平行になるように取付けて下さい。左右の取付け位置がずれていると切削時に切削ラインが曲がる原因になります。(図13)

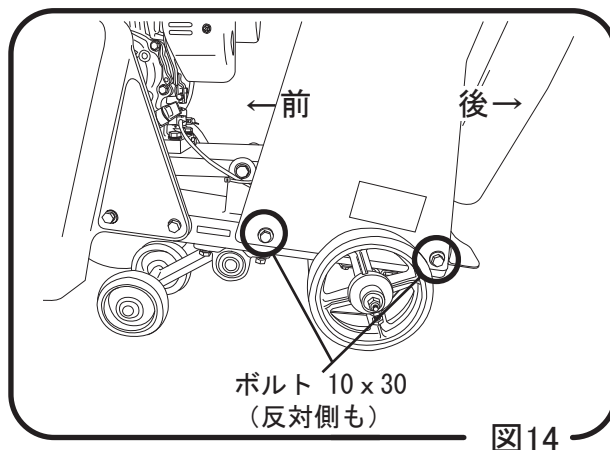


7-15 走行用丸ハンドル(爪クラッチ)の調整

水タンクフレームを取付けているボルト4本(左右2本ずつ)を外します。(図14) 水タンクフレームのボルト穴は、長穴になっています。ボルトを取付ける位置によって走行用丸ハンドルの操縦性を調整することが出来ます。

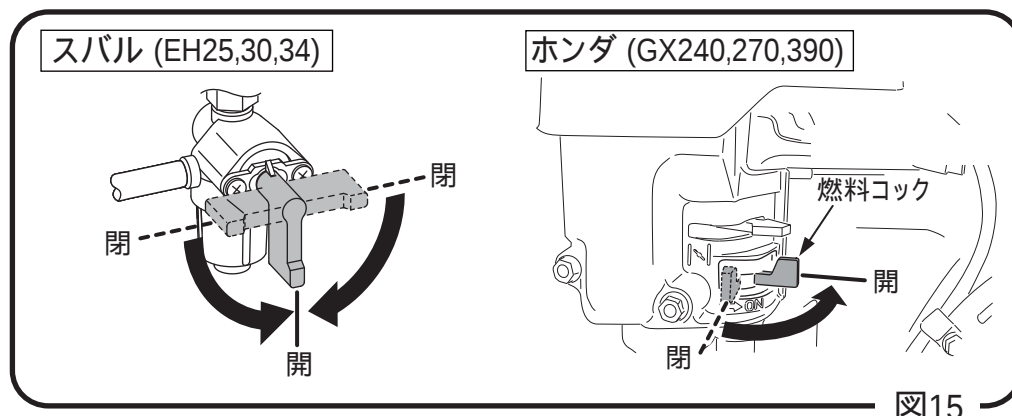
取付け位置・・・前(エンジン側)→重くなる

取付け位置・・・後(ハンドル側)→軽くなる

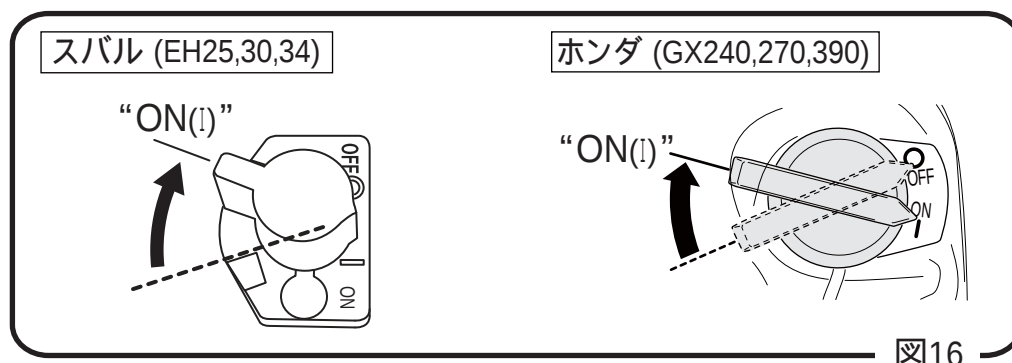


8. 運転

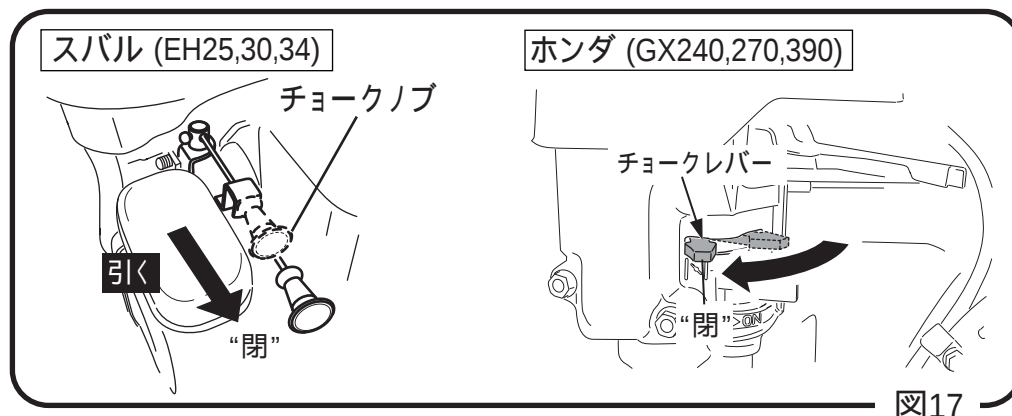
8-1-1 燃料コックを開きます。(図15)



8-1-2 ストップスイッチをON(I)側に回します。(図16)

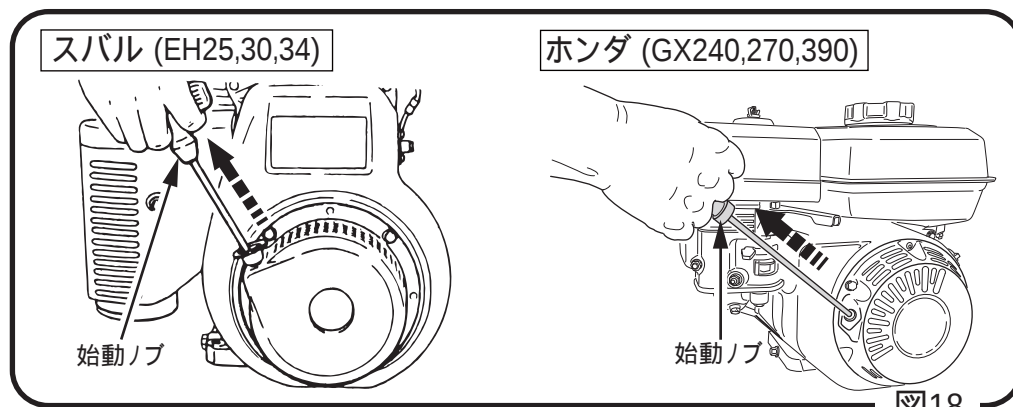


8-1-3 キャブレターのチョークレバーまたはチョークノブを閉じて调速レバーを半開きにします。チョークレバーを上に出ると全閉になります。寒いときは全開にしてください。また、うまく始動しなかった場合には、いつまでもチョークレバーを全閉のままにしておきますと燃料の吸い込みすぎとなりますので半開にしてください。(図17)



8-1-4 リコイルスターターの場合(図18)

- 始動ノブをゆっくり引いていくと重くなる所(圧縮点)があります。更に少し引くと一度軽くなる所があり、そこから始動ノブを一旦元に戻し、勢い良く引っ張ります。
- ロープは一杯に引ききらないで下さい。引いた始動ノブは、その位置から手を放さず静かに元に戻して下さい。

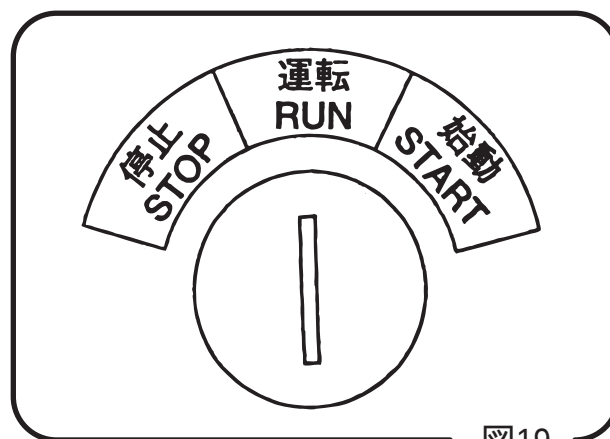


セルスターターの場合(図19)

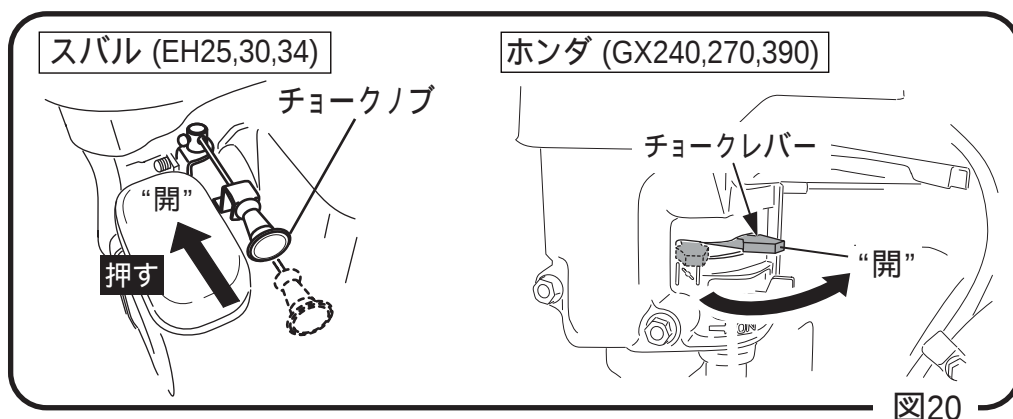
- キーをキースイッチに差し込み運転の位置に回します。更に右へ回すとエンジンが始動します。
- 始動しない場合でも、5秒以上連続してセルモーターを回さないで下さい。キーを運転の位置に戻し、10秒ほど休ませてから再始動するようにします。
- エンジン運転中は、絶対にキースイッチを始動位置に回さないで下さい。

⚠ 警告

エンジンの始動と同時にダイヤモンドブレードが回転しますので十分に注意して下さい。



- 8-1-5 エンジンが始動したらエンジン音を聞きながらチョークレバーまたはチョークノブを徐々に戻し全開にします。(図20)
- 始動後は必ず5分間低速で暖機運転を行います。特に寒冷時は必ず実行して下さい。この間にエンジン音に異常が無いが注意して下さい。



8-2 作業

- 8-2-1 切削ガイドを切断線に合わせて下さい。線合わせの時は、本機を起こして行くと簡単にできます。(図7 <P12>)
- 8-2-2 調速レバーを徐々に上げていき、エンジン回転数を高速にセットします。(図6 <P12>)

8-2-3 散水用のコックを開き、ブレードに冷却水を噴射させて下さい。

冷却水は少なくとも5～6L/分は必要です。目安としては、水が流れ落ちない程度に噴霧状に飛散している位であれば充分です。水量はコックで調節して下さい。(但し、水量に余裕のある時は多い方が好ましい。)(図4 <P12>)

8-2-4 本機を下降させてブレードで切削を始める時は、右側に設置してあるクランクハンドルを左回転させ、エンジン回転が低下しすぎない速度で切り下げて下さい。所定の切削深度に達したら、クランクハンドル下部のツマミで本機の昇降をロックして下さい。(図8 <P13>)

8-2-5 走行は切換ペダル(フットペダル)で手動切削に切換え走行用丸ハンドルで駆動軸を回して切削して下さい。

直進性を良くするため、後ろから見て右側の後車輪のみ駆動するよう設計されております。(図21)

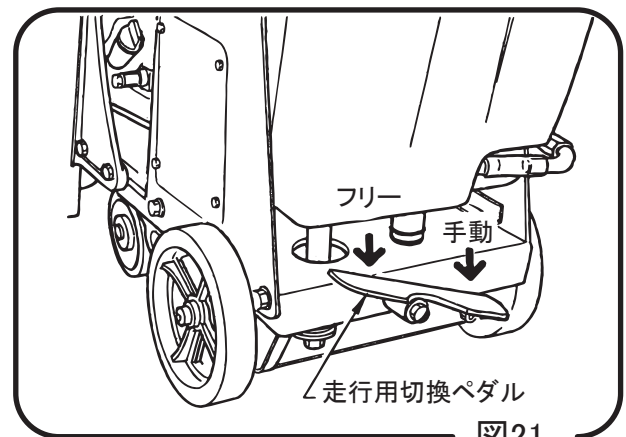


図21

注意

走行用切換ペダルの切換えの際、爪クラッチとウォームホイールの凹凸(図22)が噛合わない位置で切換ペダルを無理に踏まないで下さい。無理に踏み込むと切換ペダル等の破損の原因になります。切換えが出来ない時は、切換ペダルを軽く踏み本機をゆっくり押して下さい。

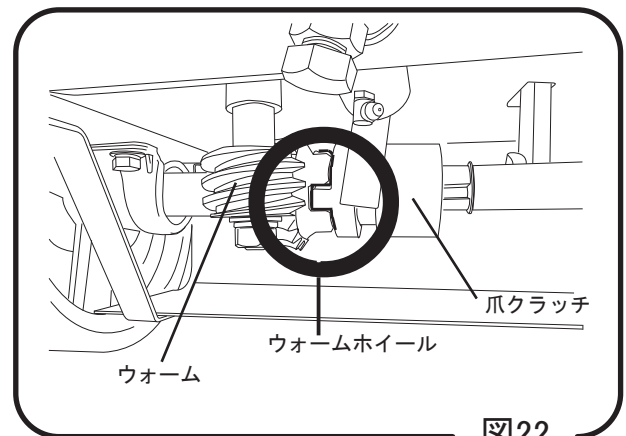


図22

8-2-6 切削が終了したら、昇降用クランクハンドルの下部にあるツマミを操作し、本機のロックを解除してクランクハンドルを右回転させて本機を上げ再びツマミでロックして下さい。

8-2-7 水コックを閉じて冷却水を止めて下さい。

8-2-8 調速レバーを戻してエンジン回転数を下げて下さい。

9. 停止

- 9-1 作業を止めてエンジンを停止させる時には调速レバーを戻し、低速回転で3～5分間程エンジンを回してエンジンの温度が下がってからストップスイッチをOFF(O)側に回します。セルスターターの場合は、キーを停止位置に戻します。エンジンの温度が下がらないうちに停止させるとシリンダー内壁の油膜が焼けてエンジンの寿命が極端に短くなりますので御注意下さい。(図23)

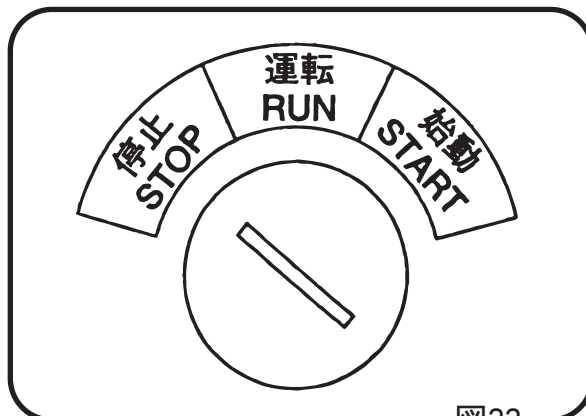


図23

- 9-2 燃料コックを閉じて下さい。(図24)

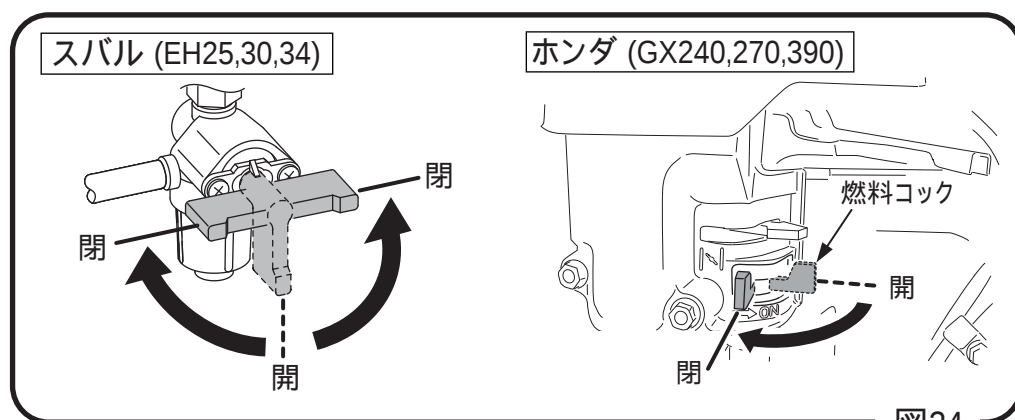


図24

⚠ 注意 切削直後は本機各部が高温になっていますので火傷等に充分注意して下さい。

- 9-3 ブレードの締付けナット(左ネジ)を外して、ブレードを取り外して下さい。
(取り付け方法と逆の手順になりますので13ページ、7-10「ブレード・消音ブレードカバーの取り付け」をご参照ください。)

- 9-4 切削ガイドフレームを起こして下さい。

- 9-5 散水コックを開いて水タンクに残っている水を排水してください。(図25)

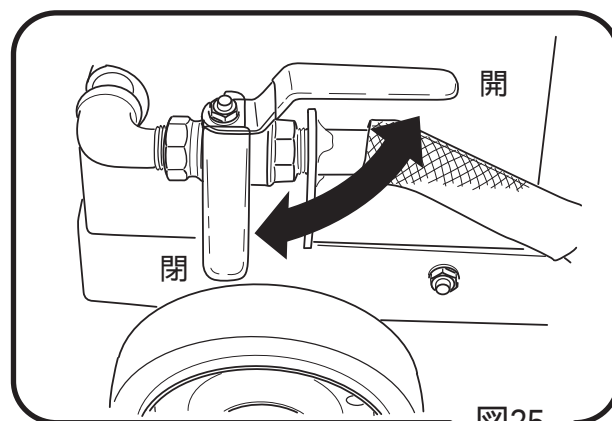


図25

10. 輸送

⚠ 警告

- 作業前にはかならずブレードを外して下さい。
- 一点吊フックの破損、ネジの緩み、脱落が無く安全である事を確認して下さい。
- 吊り上げの際は必ずブレードを取り外し、エンジンを停止させ、燃料コックを閉じて下さい。
- ハンドル部での吊り上げは絶対に行わないで下さい。
- 強度が充分で、キンクや型崩れの無いワイヤーロープを用いて下さい。
- 真っ直ぐに衝撃をかけないように吊り上げ、吊り上げた機械の下には絶対に人や動物が入らないようにして下さい。
- 安全のため、必要以上の高さには吊り上げないで下さい。

10-1 積み込み、積み下ろし

クレーンによる積み込み・積み下ろし作業はクレーン・玉掛けの資格が必要です。

10-1-1

本機の積み込み積み下ろしはクレーン等で行って下さい。

10-1-2

積み込み積み下ろし作業の際は指揮者を決め、必ず指揮者の指示により作業を行って下さい。

10-1-3

吊り上げの際は必ずガードフックに吊り上げ具を引掛けて下さい。ハンドルに吊り上げ具を引掛けての吊り上げは絶対に行わないで下さい。

10-1-4

本機を吊り上げて移動する際、急激な吊り下ろしは避け、必ず後車輪から設置するように下ろして下さい。

誤って急激に前輪から下ろした場合等には、昇降フレームにて本機の他の箇所を保護するように出来ております。

万一、昇降フレームが反って変形した場合、昇降装置にて昇降高さを最低位置にした時に、ブレード軸に取り付けられたVプーリーが地面に接触し、Vベルトの背面が磨耗する事があります。その場合、本機の昇降装置最低位置設定用ボルト14×40及びナットM14にて最低位置を調整して下さい。(図26)

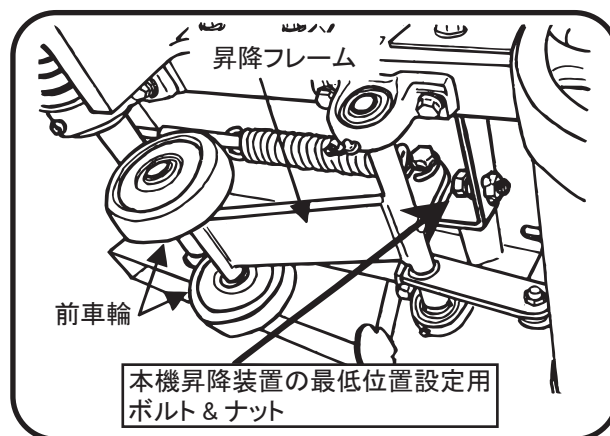


図26

⚠ 注意

道板を使用しての積み込み・積み下ろしは大変危険ですので行わないで下さい。

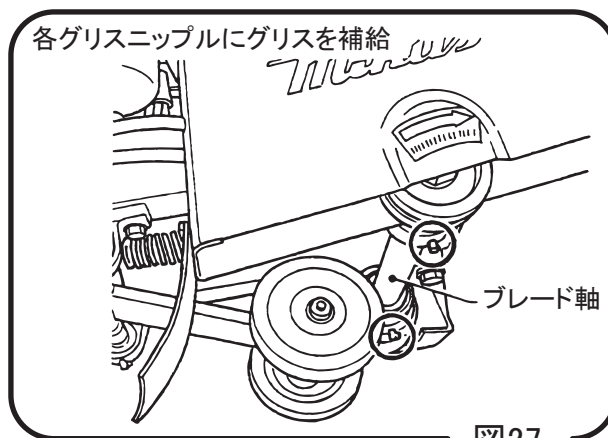
10-2 運搬に関する注意事項

⚠ 警告

- 運搬時はエンジンを停止させ、燃料コックを閉じて下さい。
- 運搬時は必ずブレードを外して下さい。
- 運搬時は必ず燃料を抜いて下さい。
- 本機は水平にした上でツマミを操作してロックし、動いたり倒

11. 保管

- 11-1 各部のゴミや泥等を水洗いして落として下さい。
- 11-2 水タンク、配管内の水は抜いて下さい。
- 11-3 各所のピローブロック及びグリスニップルにグリスを給油して下さい。特にブレード軸のピローブロックには使用後に必ずグリスを給油して下さい。(図 27)



- 11-4 ゴミや埃がかからないようにカバーをかけ、直射日光の当たらない湿気の少ない場所に格納して下さい。
- 11-5 作業終了後長期保管を行う場合は
- ①燃料タンク、燃料パイプ、気化器の燃料を抜き取って下さい。
 - ②給油、オイル補充・交換をもれなく行って下さい。点火栓を外してエンジンオイルを数滴シリンダー内に流し込み、数回手回しして内部に充分行き渡らせて下さい。
 - ③リコイルスターターを引き圧縮のある所で止めて下さい。
 - ④エアクリーナー、マフラーの吸入口及び排気口をしっかりと覆って下さい。
 - ⑤屋外に放置せず、屋内に格納して下さい。
 - ⑥本機を横倒しにして保管しないで下さい。

12. 定期点検と調整

1. 各部点検スケジュール表

点検時期	点検箇所	点検項目	油脂類
毎日（作業前）	外観	傷、ゆがみ	
	燃料タンク	漏れ、油量、汚れ	ガソリン
	燃料系統	漏れ、油量、汚れ	
	エンジンオイル	漏れ、油量、汚れ	エンジンオイル
	エアクリーナー	スポンジの埃	
	ブレード	傷、破損	
	昇降装置	機能確認、油脂	グリス
	一点吊フック	破損、傷、ボルト・ナットの緩み・脱落	
	ボルト・ナット類	緩み・脱落	
20 時間毎	エンジンオイル	初回のみ交換	エンジンオイル
100 時間毎	エンジンオイル	交換	エンジンオイル
	昇降装置		
	昇降ネジ（図 15）	傷、曲がり、給脂	グリス
	昇降ハンドル基部（図 15）	傷、曲がり、給脂	グリス
	スライダー基部（図 16）	傷、曲がり、給脂	グリス
200 時間毎	ピロブロック（図 16）	給脂	グリス
	V ベルト	傷、張り	
2 年毎	燃料パイプ類	交換	
不定期	エアクリーナーエレメント	交換	
	ピロブロック	磨耗、異音、がたつき	

エンジン関係の点検及び整備につきましては、付属のエンジン取扱説明書を参照して下さい。

注）上記は標準状態での点検時間です。使用条件により内容が異なりますので御注意下さい。

ボルト・ナット類の増し締め等を行う際は、下記締付トルクー一覧表に従って下さい。

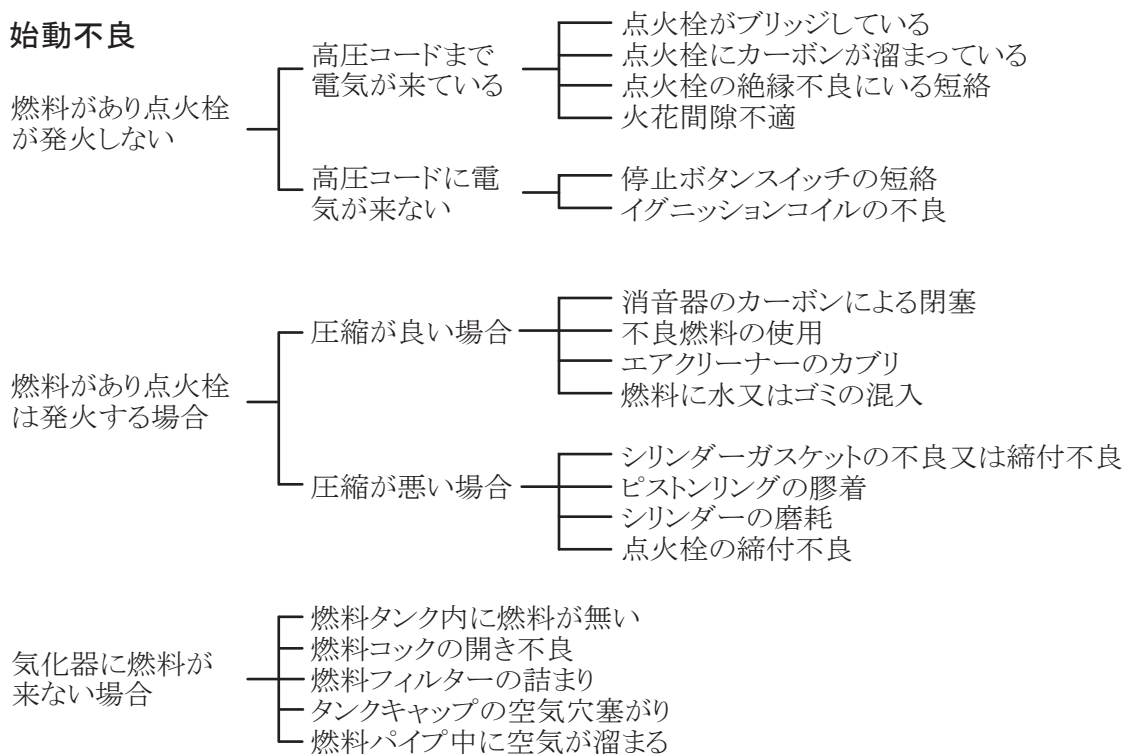
締付トルクー一覧表（単位：kgf・cm、1kgf・cm=9.8N・cm）

		ネジ径							
		6mm	8mm	10mm	12mm	14mm	16mm	18mm	20mm
材質	4T(SS41)	70	150	300	500	750	1,100	1,400	2,000
	6-8T(S45C)	100	250	500	800	1,300	2,000	2,700	3,800
	11T(SCM3)	150	400	800	1,200	2,000	2,900	4,200	5,600
	相手材質がアルミニウムの場合	100	300~350	650~700	(本機に使用しているネジは全て右ネジです。)				

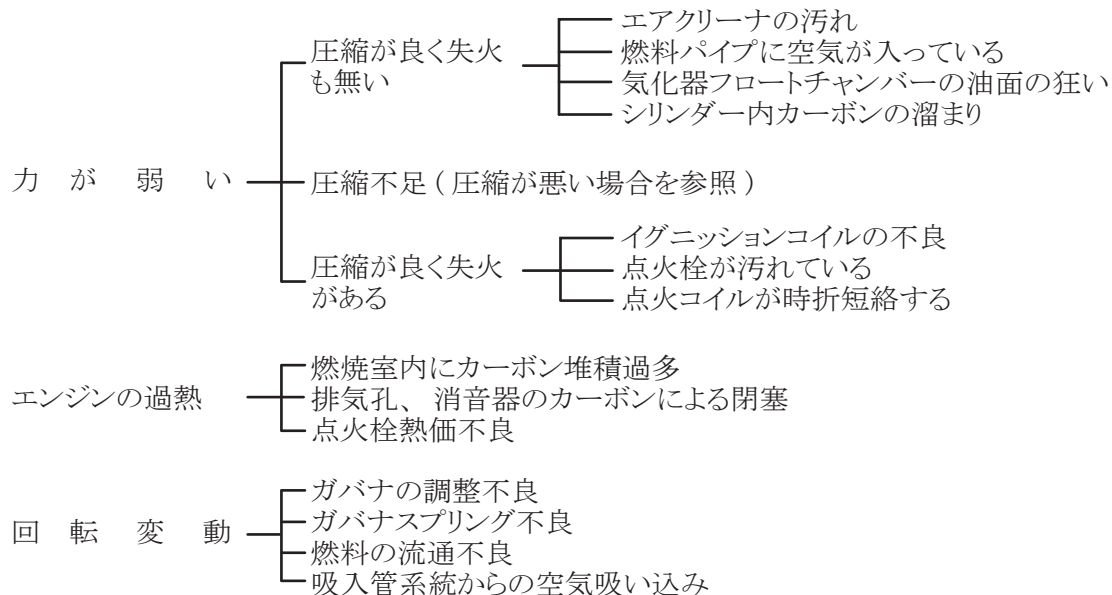
13. トラブルシューティング

13-1 エンジン

13-1-1 始動不良



13-1-2 運転不調



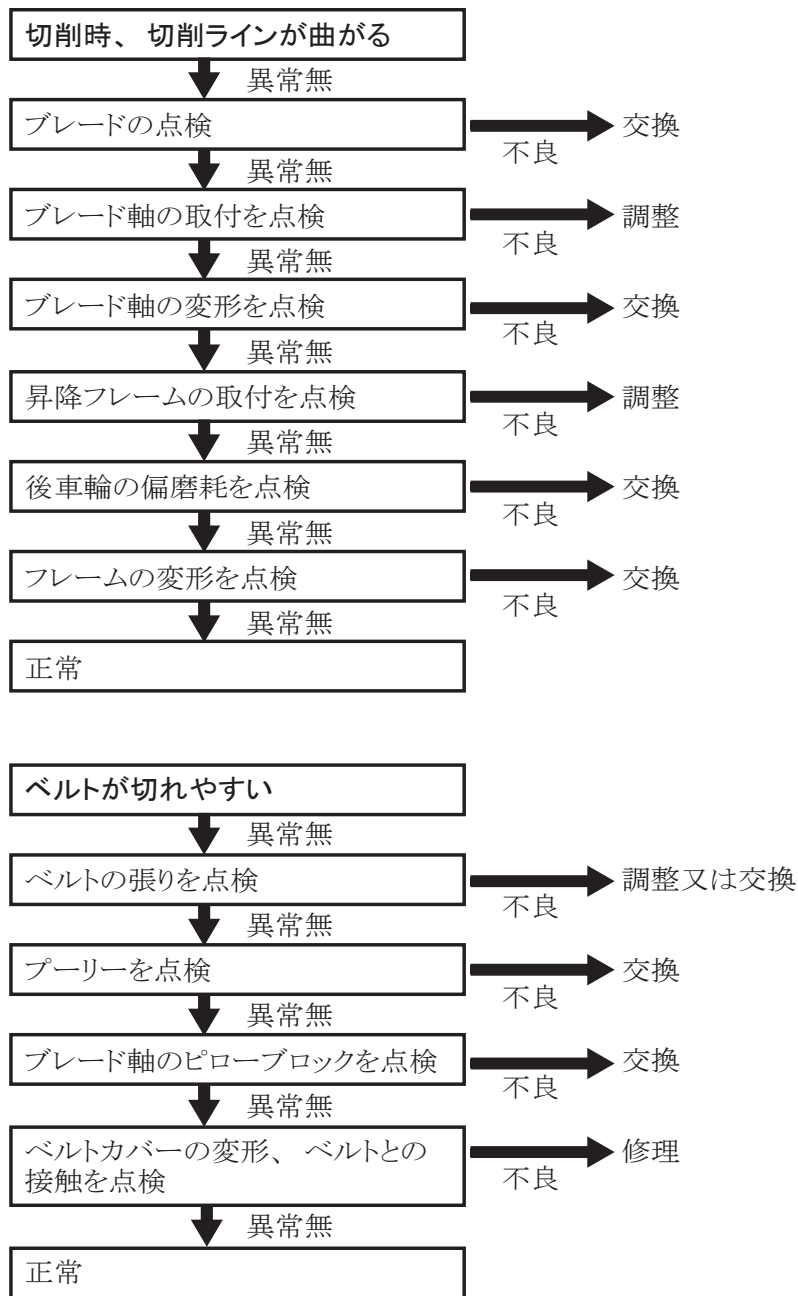
13-1-3 リコイルスターターの動きが悪い



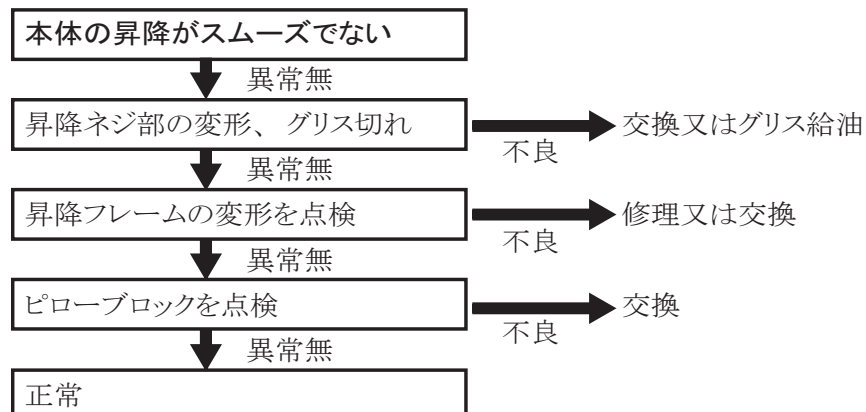
13. トラブルシューティング

13-2 本機

13-2-1 ブレード系



13-2-2 昇降系



Mikasa

MIKASA SANGYO CO., LTD.

1-4-3,Kanda-Sarugakucho,Chiyoda-ku,Tokyo,101-0064,Japan

三笠産業株式会社

〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町1-4-3

修理に関するお問合せ

TEL 048-734-2402 FAX 048-734-7678

部品に関するお問合せ

TEL 048-734-2401 FAX 048-736-6787

その他のお問合せ

info@mikasas.com

Web パーツリスト

<https://www.mikasas.com/MIKASA/index.html>



PRINTED IN JAPAN